

・意見交換及び情報収集 次第
1) 開会（事務局）
2) 挨拶（安藤地域産業担当部長）
3) 座長選出 ※宗岡委員を座長として選出
4) ①環境情報協議会の設立経緯について（事務局） ②田園環境整備マスタープランについて 概要：事務局 各町：根室市、別海町、中標津町、標津町（本町は事務局より） ③情報提供（実施地区における環境配慮事例） 環境調査について 残土の有効活用について ④計画策定地区の説明及び意見交換等 ※③及び④については下記、議事録のとおり

■実施地区における環境配慮事例について
□環境調査について（農村振興課 酒巻係長） 資料P23～P28に沿って説明。
○外山委員 サーモン科学館からの提案を踏まえた調査・解析は有意義。 引き続き河川等に対する生息物の調査及びこれらに対応する配慮は必要である。
□残土の有効活用について（農村振興課 山田主幹） 資料P29～P34に沿って説明。
○宗岡委員 使用箇所による経済性が大きな要素となる事から、今後は国と道・市町、土木と農業など有効利用できるようなシステム作りも中長期的には必要と考える。
○宗岡委員（まとめ） 今後このような情報提供を行う場合、データを示すなど、ある程度他の報告と横並びとなるよう、作成方法を検討していただきたい。 各事例報告について了解した。

■西根室第2地区について

□農村振興課 小野係長

資料P35～P44に沿って説明。

□草地整備における全体を通じた情報提供について（農村振興課 小野係長）

除草剤の取扱いなどについて今後の対応方法などを提示。

○宗岡委員

これまでの3年間にわたる協議会の議論の意図を踏まえ、受益者である農家が判断できるよう適切に情報等を伝える事は必要であり、この内容を整理していることは評価できることである。

□整備ほ場の位置について確認

○外山委員

33-2の位置について、高層湿原の所在地に隣接しているのかどうか確認したい。

○小野係長

図面により場所を説明。

○外山委員

影響のない箇所であることを確認した。

■上春別第2地区について

□農村振興課小野係長

資料P45～P52に沿って説明。

□排根線の除去について確認

○宗岡委員

除去後に有効利用を想定しているのか、又は廃棄するのか。

○小野係長

ほ場内の隅へ移設。

○宗岡委員

了解した。

■ 中新地区について

○ 農村振興課小野係長

資料 P53～P61 に沿って説明。

□ 地区の整備内容について宗岡委員から外山委員に確認

○ 外山委員

河川からの距離も確保されているなど、特記するような状況は想定されない。

■ 草地整備事業、3地区を通じたまとめ

○ 宗岡委員

1. 除草剤の取扱いについては、これまでの3年間にわたる協議会の議論の意図を踏まえ、受益者である農家が判断できるよう適切に情報等を伝える事は必要であり、この内容を整理していることは評価できることである。
2. 各地区とも起伏修正、一部の道路整備が主体であり、河川からの距離なども確保されていることから、現時点での特記事項は特にない。
3. しかし、各地区内には高層湿原のエリアが残存している箇所があることから、そういったところが見つかった場合、或いは工事に何か抵触するような可能性があるものが見つかった場合には、専門家の意見を聞いた上で施工計画を立てるなど、十分に配慮を行ってほしい。

■ 東柏野地区について

○ 農村振興課小野係長

資料 P62～P66 に沿って説明。

□ 本地区における考え方などについて宗岡委員から外山委員に確認

○ 外山委員

タンチョウを筆頭に貴重な動植物に対しては、施工時期が一番注意すべき案件かと思われる。

記載のとおり各種の団体に確認をとるなかで専門家の意見を踏まえ、適切な調査と施工時期などについて検討を行い、環境への配慮をしてほしい。

○ 宗岡委員（地区まとめ）

意見を聞いた上で営巣などが確認されなければ、比較的粛々と進めてよいと判断できる。

■平成地区について

○農村振興課小野係長

資料P67～P71に沿って説明。

□道路の規格・構造及び橋梁について確認

○宗岡委員

道路の規格・構造について、東柏野地区は4.0(6.0)の1車線、本地区は5.5(7.0)の2車線と違うので、確認したい。

○外山委員

橋梁があるが、掛け替えを想定しているのか確認したい。

○小野係長

規格は5.5(7.0)の2車線、橋梁は不施工です。

○宗岡委員(地区まとめ)

以上の状況を踏まえると、河川周辺を施工することは極めて少ないと判断できることから特記するような意見はありません。

■開陽28線南地区について

○農村振興課小野係長

資料P72～P76に沿って説明。

□事業のタイプについて確認

○宗岡委員

高度化型と強靱化型の違いは、防災減災国土強靱化など国の施策に由来するものと考えてよろしいか。

また、今後も実施予定地区はあるのか。

○小野係長

そのとおり。

□本地区における考え方などについて宗岡委員から臼井委員に確認

○宗岡委員

近年の猛吹雪などの状況を踏まえると、当該路線のように3種5級で2車線道路の整備、特に視線誘導標の整備などは集乳なども踏まえると大変重要なのではと考えますが。

○臼井委員

現在、農家戸数も減少していることから、過去のブラックアウトや吹雪などのときには、基幹道路となっている路線から除雪される。また、張り付き農家の減少によって迂回道路についても減少している。

このため、本路線のように2車線で基幹道路の整備は、地域のインフラ整備として非常

に重要と感じている。

なお、本路線の延長部分の整備については行われぬのか確認したい。

○宗岡委員

起終点の考え方などについて補足説明があれば。

○小野係長

町の整備計画では、本地区の延長部分（北側）も入っています。

今回の路線については、特に痛みの激しい部分など優先順位を踏まえ設定しております。

なお、大型の視線誘導標の整備は、積雪対策等を踏まえたものとして計画しております。

○宗岡委員（地区まとめ）

防風保安林が有る地区であることから、動植物など貴重なものが確認されれば適切に配慮するという事を踏まえ、計画的・着実な事業の進捗に努めていただきたい。

■道路事業、3地区を通じたまとめ

○宗岡委員

1. 砂利道の舗装化のほか強靱化としての道路整備は、地域の生活の確保だけでなく、我々消費者に繋がる農産物の輸送など、非常に重要であることから粛々と進めていただきたい。

2. 特に本地域のような酪農地帯では、道路が3～4日も止まると牛乳が鮮度の良い状態で出荷できなくなり、農家の死活問題にも繋がる案件であり整備の重要性は高い。

□その他

○安藤部長

当管内は、生乳の輸送距離が長くなっており時間もかかることから適切に、粛々と整備を進めていきたいと考えている。

■あさひ西春別地区について

○農務課小倉主査

資料P77～P77-6（追加資料）に沿って説明。

□本地区における考え方などについて宗岡委員から外山委員に確認

○宗岡委員

各地区とも河川に近いほ場がある。施工時期は、測量等の準備を終えると8～9月の降雨時期と重なる場合もあり土壌浸食への配慮が必要と考える。

その他に補足などを外山委員よりお願いします。

○外山委員

まず、土砂の流出には配慮をお願いしたい。

ほかに、施工の時期や手法などについて、他の先生の意見も伺いたい。

○宗岡委員

秋施行や春施工など各種の手法もあるかと思いますが、工程上の問題も含め対応できる手法について臼井委員に確認したい。

○臼井委員

降雨前までに播種を済ませて根が張り土壌を抑えることができれば土壌の流出に対して一番効果が期待できると思う。

本年度で2回目の試験ですが、発芽の早いえん麦との同伴播種を実施

この手法でも2番草くらいの量は確保できる。

同伴播種したほ場では、6月の多雨でも土壌の浸食（流出）がだいぶ抑制できました。

道営事業の場合、一般的にはGW明けからの施工となっており、少しでも早くできれば良いなとは思っている。

今は、播種限界が9月15日頃なので工期的には以前より余裕が出てきていると感じている。

当該ほ場は、放牧地のため環境リスクの面から考えると、起こしたりしないので万が一流出するような状況となっても一過性のものであり影響は低いと考えます。

○宗岡委員

秋、春の施工など、施工時期の工夫や河川と隣接する農地、バッファーとなる耕作しないエリア部分の確保などが土砂の流出抑制効果が期待できるのではないかと。

現在は、持続的な酪農と環境保全が重要なキーワードであります。

○後藤課長

近年は、3月発注などの事例もありますが極力早期の発注、施工に留意していきたいと考えています。

○宗岡委員（地区まとめ）

水環境への配慮が必要である場合、早く播種できるかどうか今後は関係者の中で議論を行っていくこととします。

○臼井委員（途中退席のため最後のコメント）

現在は、農家戸数の減少に合わせて機械の大型化が進んでおり、ほ場の隅々まで入ることができない状況が生じている。このため、河川近くなど大型機械の入れない縁側については、バッファゾーンとして植樹エリアにするなど、実態に合わせた農地管理に見直す時期に来ているのではないかと。また、笹藪なども効果的なので緩衝地帯での導入についても検討してはどうか。

町等もこのような土地について積極的に購入の検討が必要ではないかと。

■中春別地区・知床茶志骨地区について（一括説明）

○農務課小倉主査

資料P79～P79-4（追加資料）に沿って説明。

□本地区における考え方などについて宗岡委員から外山委員に確認

○外山委員

前出のあさひ西春別地区と同様に河川との近接箇所は環境への配慮が必要。

○宗岡委員（地区まとめ）

前出と同様であり、保安林に対する配慮も同様に必要。

■公社営事業、3地区を通じたまとめ

○宗岡委員

1. 河川との近接箇所や防風林については、配慮が必要。
2. 河川や高層湿原など水環境の保全上配慮の必要性がある場合という限定ではありませんが、草地整備・播種の時期などを見直せるか、専門家や行政、土木技術者、営農者、一般の方を巻き込んだ議論を長期にわたって行っていかなければならないと考える。

■別海第3地区について

○別海町植松主査

資料P80～P85に沿って説明。

□本地区における考え方などについて宗岡委員から外山委員に確認

○外山委員

特になし。

○宗岡委員（地区まとめ）

環境配慮という面からは、施設内での工事ということで問題はない。
生活環境の整備であり、粛々と整備を進めていただきたい。

■中標津第4地区について

○JA 中標津に代わり農村振興課 藪中主査
資料P86～P89に沿って説明。

□本地区における考え方などについて宗岡委員から外山委員に確認

○外山委員
特になし。

○宗岡委員（地区まとめ）

道営事業と同様にタンチョウや湿地区域、防風林等の貴重な鳥類や植物などに対して配慮する案件が確認された場合は、有識者等の意見を確認した上で施工時期等について検討が必要。

■今回の会議を通じた全体のまとめ等

□各委員より協議会全体を通じた意見について

○荒木委員

臼井委員の発言にありました、耕作不適地に対する購入及び植樹については賛成の立場です。

ほかに2点質問

①動植物への配慮に対して、管内ではどのようなものが対象となるか。

②事業における工事の発注について、業者の内訳を知りたい。

○①について外山委員より回答

タンチョウ、シマフクロウ、防風林を移動経路とするものにモモンガ等があります。

植物関係では、高層湿原のほか蘭の仲間のトキソウ、大雪山などで見られるスゲなどが平地で見られることなどから、整備に特に留意することで環境への配慮に繋がると考えています。

○②について後藤課長より回答

管内の工事は、草地や道路などが主体となっており地元の企業が優先的に入れるような仕組みとなっております。

特殊な工事や金額の高い物などについては、管外の業者もありますが地元業者の育成という部分も含めた入札の仕組みとなっております。

○宗岡委員

補足、私に関係している国の機関（開発局）や道庁の仕事を俯瞰してみると、道庁の発注は地元で配慮したものとなっております。

○荒木委員

了解しました。

○外山委員

途中議論でも出ておりましたが、河川周辺の環境が非常に重要視されており、これに関連して情報提供いたします。

環境省では、国立公園等には至らないが環境保全に対して重要な土地（農地等も含む）を2030年までに国土の30%程度、生物多様性を保全する地域として、指定管理するという検討が進んでいるところ。

今後の当協議会でも組み込んで行けたらと考えています。

○山下委員

昨年はweb会議だったが、本年度は現場と会議の両方を体験できたことにより非常に有意義であった。

各関係者が意見交換をしながら進めることですごく楽しみである。（環境への配慮などが有意義に進められることが実感される。）

○宗岡委員

臼井委員の発言にありましたように、持続的な酪農と環境保全の両立を考える中で排水条件や大型化した農業機械の利用しづらい農地を、今後どのように土地利用するかということをおもひで考えることが非常に大切なことと思います。

同業者を集めた互助会的な会ではなく、違う意見の方がいるこのような会は大切にしたい。

今回提示された、過去3年間議論した農業に関する農家への提示資料も正確なもので非常に良い資料となっている。

また、過去に行われた防風林伐採に関する議論、本で行われた環境配慮の必要性の高いほ場に対する播種時期とそのためにはどうすれば良いかなど、今後もこのような場で各種の議題を継続して議論していくことが大切である。

以上、事務局に進行を戻し閉会